

伊勢湾流域圏 の再生 シンポジウム

Vol.4

生物多様性に
配慮した持続可能な
生産と消費

2019年

2月3日（日）

13:30～

■ 会場：岐阜市
メディアコスモス
「かんがえるスタジオ」

■ 資料代 500円

どなたでもご参加いただけます。
直接会場にお越しください。

● 基調講演

「生物多様性の主流化」を物差しに考える
地域の現状、日本の現状（高山 進）

● 地域からの報告

鈴木 建一

あいちの森とまちを繋ぐ「森と子ども 未来会議」

学童保育—板倉の家—の活動

平工 顕太郎

河川漁業の実態からみえる、これからの川漁師モデル

神田 浩史

揖斐川流域のつながりを紡ぐことで見えてくる
” 穏豊社会 ”

● 10:00～「国際会議の最新状況報告！」も開催 〈裏面参照〉



高山進

1949年生まれ。2005年から伊勢・三河湾流域ネットワーク共同代表、2010年生物多様性条約COP10にNGOの側から参加、2011年から三重県志摩市の里海創生政策に関わった。最近数年間は、「愛知目標」の最も主要な論点である「生物多様性の主流化」と照らして日本の流域圏政策の現状をどう理解するかというテーマに関心を持ち、アメリカ、イタリアの流域圏政策との比較を通して考察を進めてきた。



鈴木建一

名古屋市内に本社を置く物流会社の役員。祖父が刈谷市で製材・建築業を営んだが1代で廃業。50才で祖父が建てた自宅建替を決意したのを契機に、地元の材を使い、冬暖かく夏涼しい自然エネルギーの家をコンセプトに林業6次化の仲間づくりを推進。昨年春、学童保育施設を地域の森から保護者や地域の皆で造る「森と子ども未来会議」を発足。

森と子ども 未来会議 発起人 / 額田木の駅プロジェクト 常任委員 / 一般社団法人奏林舎 設立社員 / 日本板倉建築協会 賛助会員 / NPO青ねこくらぶ 理事



平工顕太郎

長良川流域を主な漁場とする現役川漁師。国指定重要無形民俗文化財『長良川鵜飼』では鵜匠代表専属の鵜舟船頭を務めた。現在は漁業のほか川魚の6次産業化、和船を活用したツーリズム事業など幅広く清流文化の発信に尽力。1983年生。水産学部卒

長良川漁業協同組合総代 / 長良川漁船『結の丸』船長 / ゆいのふね代表



神田 浩史

京都市出身。ODAやNGOでのアフリカ、アジアでの経験を経て、現在は垂井町を拠点にフェアトレードや地産地消の推進、揖斐川流域の循環型社会の再構築などを提唱し、実践を続けている。



*このイベントは平成30年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金助成を受けて開催しました。

JR岐阜駅または名鉄岐阜駅からバスで約15分

- ◆「メディアコスモス前」バス停下車すぐ
- ◆「市民会館・裁判所前」バス停下車すぐ

岐阜県岐阜市司町40番地5

2010年名古屋で開催された生物多様性条約COP10において採択された愛知目標の達成期間も残すところ2年となった。私たちは過去3回、愛知目標の達成を20ある目標ごとにはではなく、流域圏という広域的な視点から、また現場の眼を持つ市民の視点から考えようとシンポジウムを重ねてきた。

4回目となる今回、基調講演において「愛知目標」の基本理念である「生物多様性の主流化」とは何であったかを再確認し、3名の実践者からは森、川、街で「生物多様性に配慮した持続可能な生産と消費」のあり方を日々模索されているご経験を伺い、参加者と未来に向けた知恵を模索したい。

同日開催！

持続可能な生産・消費を巡る国際会議の動向、報告会

日時：2月3日（日）午前10:00～12:00

会場：岐阜市メディアコスモス

- ・ワシントン条約第70回常設委員会 報告（鈴木希理恵：JWCS）
- ・ラムサール条約COP13 報告（亀井浩次：藤前干潟を守る会）
- ・生物多様性条約COP14 報告（三石朱美・UNDB市民ネットワーク）

主催：野生生物保全論研究会（JWCS）

共催：野生生物保全論研究会（JWCS）・伊勢湾流域圏の再生を考えるシンポジウム実行委員会

（実行委員会加盟団体：伊勢・三河湾流域ネットワーク / 国連生物多様性の10年（UNDB）市民ネットワーク / 中部の環境を考える会 / 四日市ウミガメ保存会 / よみがえれ長良川実行委員会 / 設楽ダム建設を考える会）

■問い合わせ：長良川市民学習会 090-1284-1298（武藤）